

一般質問

令和2年2月池新田財産区内の砂の売却について



齋藤 洋

**問** 契約書における単位が、平方メートル当たりとなっていて、砂の売却単価が1千円/平方メートルとなるが、その根拠は

**答** 平場を掘削する場合は平方メートル。山を切り崩す場合は立方メートルとして、商慣習により契約しています。また、売却単価も商慣習として、30年ほど前から同額としています。

**問** 単価設定の根拠として200円/立方メートルであると「県の河川管理条例内の砂の売却価格」を準用したと思われるが、河川の流れや船舶の運航に支障をきたす砂の処分代として設定したものであるから、財物の売却単価として採用するのは不適当ではないか

**答** 事業者の事業計画に沿う売却です。余分な物という発想はなかったものと考えます。市内には、8メートルまで砂の採取が可能な地域がある。その場合、売却単価が125

円/立方メートルとなるので、やはり不適当ではないか

**答** 一概には言えないと思います。

**問** 県公表の「建設資材単価」の令和2年2月のコンクリート用砂の価格は、4,700円/立方メートル。原材料費として、その2割とか3割が適正価格ではないか

**答** 市の設定価格が安すぎるという論理には、違和感を持ちます。

**問** 本契約は、随意契約となるが、売却価格が30万円を超えているので、地方自治法施行令に抵触するのではないかと

**答** 事業者の事業計画に基づいたものであり、入札に適さない契約と判断しました。

**問** 本契約は、砂の採取がまだ実施されていないようなので、白紙に戻すべきではないかと

**答** 契約行為が済んでおりますので、白紙に戻すのは困難であると考えます。

一般質問

御前崎市の歴史遺産と地域振興について



鈴木克己

**問** 遠州広域行政推進会議において、来年のNHK大河ドラマ「どうする家康」を遠州地方の観光振興、地域活性化につなげるため、各市町が連携して情報発信に取り組んでいくことを確認しました。御前崎市も「高天神城の戦い」を通じて徳川家康とは深い因縁があります。朝比奈地区には徳川家から葵の紋所の使用を許された閑田院があります。御前崎市は、どのような方法で大河ドラマ「どうする家康」を観光振興、地域活性化につなげるのかお伺いいたします

**答** 大河ドラマによる観光の振興施策は、それぞれの自治体で完結するものではなく、広域的な事業展開が必要となります。本市におきましても、静岡県や浜松市などを中心とした西部地域と連携を組みながら、効果的な観光誘客事業を行ってまいりたいと考えております。

**問** 学校では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、オンライン授業がメタバースに発展するかもしれません。御前崎の歴史をVR（仮想現実）やAR（拡張現実）を通じて子ども達が学ぶ仮想空間を整備する予定はありますか

**答** これまで、教育においては直接体験が重視され、大きな効果を得てきました。その一方で、仮想現実や拡張現実を活用した疑似体験では、現実には難しいことを体験でき、こうした方法による教育効果も期待されています。今後、新しい時代の学習ツールになっていくものと考えていますが、地域独自の教材となると技術面やコスト面が大きな課題になり、時間が必要になってくると思われまます。

《メタバース》  
インターネットの進化系。アバターを介して人々が交流したり、仕事をしたり、学んだり、遊んだりできるオンライン空間。